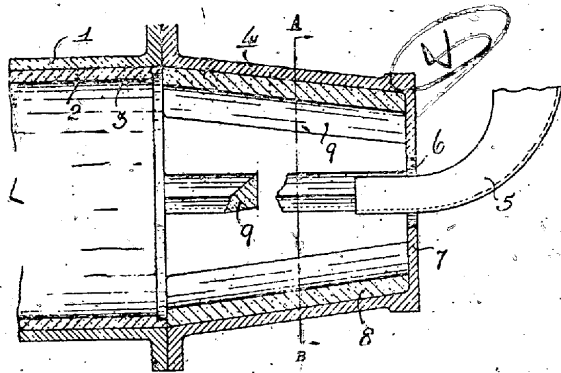
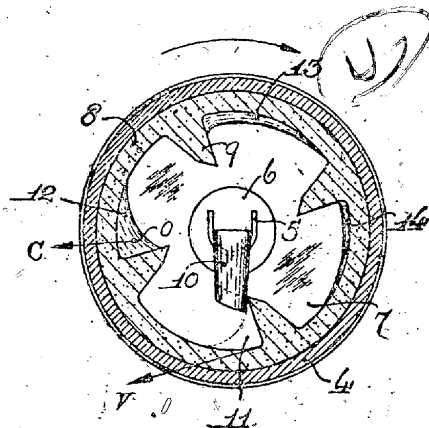


特許抄録

遠心鑄造法 (1) 第 3726 號 [昭 17-8-5] (2) 昭 17-4-21 (3)

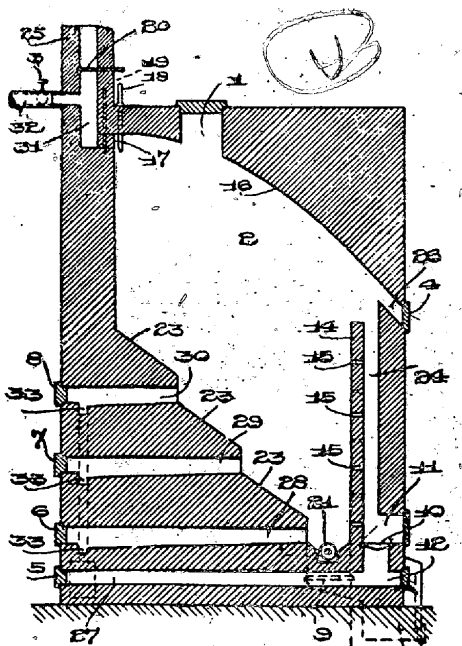


第 1 圖



第 2 圖

他端を閉塞して成れる廻轉容器を廻轉鑄型の末端に結合するか又は廻轉鑄型内に挿挿して廻轉鑄型と同方向に廻轉し且つ廻轉容器の閉塞端の中心を通して容器の内腔に溶金屬を注入して其の流れを各種の傾斜邊にて等量切り取り之を樋底に收容抱持して廻轉を與へ開口端より廻轉鑄型内に自働的に流入せしむることを特徴とする遠心力鑄造法に係る。



第 3 圖

小林義彦 (4) 株式会社栗本鍛工所、本發明は圖に示す如く中心に近接するに従つて廻轉方向に進相すべく傾斜する一邊と圓周の一部より成る斜 V 字形斷面を有し廻轉輪線の方に延長する樋を内周に沿ひて等間隔に配置し各種の鑄型に向へる側の斷面を開放し

半連續式炭化爐 (1) 第 3751 號 [昭 17-8-5] (2) 昭 16-4-11, (3) (4) 小林久平

外一名 本發明は圖に示す如く火床の背部に細孔を穿てる隔壁を樹立し爐内を燃燒室と炭化室に區劃し正面より背面に涉り下面が拋物線形を呈せる天井にて被ひ正面壁の上品即ち天井下に水平線に沿ひて數個の通風道を配列し尙爐底は正面より背面に向ひ階段狀となし背面壁には高さを異にする水平線上に爐底階段部に開口せる十數個の精煉管を列設し爐底最下部に炭化生成物を排出すべき螺旋搬送器を備ふることを特徴する半連續式炭化爐に係る。

鐵及鐵合金より硫黃砒素又は他の有害なる成分を除去する方法

(1) 第 3754 號 [昭 17-8-5] (2) 昭 12-10-14, (3) フリードリッヒ、ヨハンゼン (4) 三菱鑛業株式会社外一名。

本發明は鐵を微粒狀に於て且冷狀態に於て精煉劑と混合して廻轉可能なる反射爐中にて熔融し微粒の鍍滓形成精煉劑の使用の下に於て鐵及鐵合金より硫黃砒素又は他の有害な成分を除去する方法に係る。

沈澱硫黃鑄より硫黃を分離採取する方法 (1) 第 3755 號

[昭 17-8-5] (2) 昭 15-7-31, (3) (4) 新藤孫一、本發明は沈澱硫黃鑄を液深採取し之を水洗したる後適量の炭酸石灰粉末を混じて乾燥したる後加熱罐にて加熱し原鑄中に含有する遊離硫酸を硫酸石灰として殘留せしむると同時に硫黃を昇華せしめて硫黃を分離採取することを特徴とする硫黃の採取法に係る。

電氣接點用合金 (1) 第 3756 號 [昭 17-8-5] (2) 昭 15-5-15

(3) (4) 松井角平 本發明は Ag 17%, Cd 3%, Pt 80% を含有する電氣接點用合金に係る。

電鑄に依るアルミニウム反射鏡の製法 (1) 第 3757 號 [昭 17-8-5] (2) 昭 14-10-23, (3) 藤野米吉, (4) 日本光學工業株式會社

本發明は眞空蒸發又は陰極飛唾によりアルミニウムに作用せざる藥液に溶解易き金屬の薄被膜を硝子母型面に形成しこの被覆金屬面にアルミニウムを鍍金して其の上に鍍殼金屬層を造りこの重合金屬層を硝子面より剝離したる後アルミニウム前面の薄層金屬を上記藥液にて溶解除去することを特徴とする。電鑄によるアルミニウム反射鏡の製法に係る。

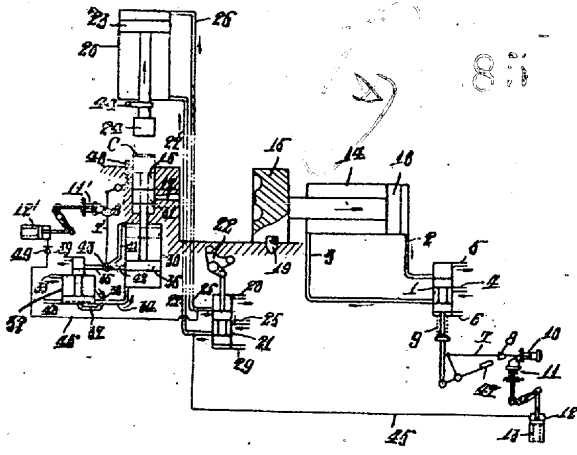
含油金屬軸承製造方法 (1) 第 3758 號 [昭 17-8-5] (2) 昭 15-3-12, (3) (4) 川崎宗造、本發明は鼠銑鐵の鑄物素材に反覆して燒鈍處理を行ひ適度に生長したるものを軸承形に工作加工し然る後潤滑劑を浸潤含有せしめることを特徴とする含油金屬軸承製造方法に係る。

高礬土質耐火物の製造法 (1) 第 3760 號 [昭 17-8-5] (2) 昭 15-10-5 (3) 今泉貞治 (4) 川崎窯業株式會社、本發明は白雲母、黑雲母、珪石及紅桂石等を夾雜物として比較的少量に含有する朝鮮産珪線石の微粉と高礬土質頁岩の粗粉とを主成分とし之に 10% 以下の可塑性粘土若くはベントナイトを添加し且前記珪線石微粉を全量の 30~50% となる如く調合し然る後適宜成形乾燥して攝氏 1435~1530 度に燒成する高礬土質耐火物の製造法に係る。

マグネシア耐火物 (1) 第 3761 號 [昭 17-8-5] (2) 昭 15-10-23, (3) 伊藤集湧外一名 (4) 東京芝浦電氣株式會社、本發明は硼酸又は比較的揮散し易き硼酸鹽を配合せる事を特徴とするマグネシア耐火物に係る。

加壓鑄造機に於ける自働弁裝置 (1) 第 3830 號 [昭 17-8-10]

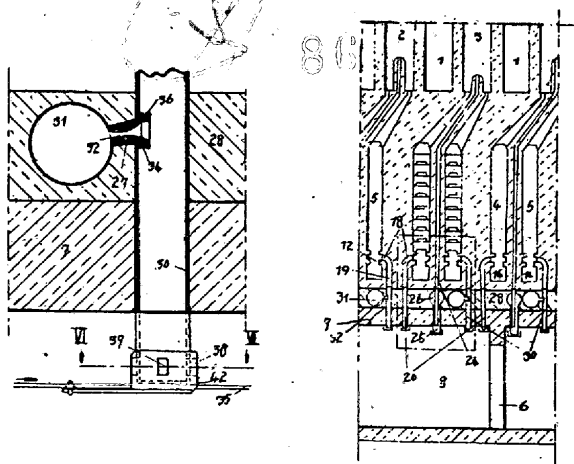
(2) 昭 16-12-18, (3) (4) 中村智, 本發明は圖に示す如く壓力流體により作動せらるゝ加壓鑄造機に裝備せる湯溜室内の熔融金屬を加壓鑄入すべく裝置されたる湯押氣筒及湯溜室に近接して設けたる湯口に鑄型を壓接すべく裝置されたる型押氣筒其の他の作動氣筒等の各衝程作動を制御する作動辨體の連桿に設けたる突起を之に近接して裝置したる止爪裝置に懸止し止爪裝置には各氣筒の背壓により作動する差動辨を設置し各氣筒の衝程作動中は其の背壓により前記の差動辨は自體の撥條其の他の緊壓裝置に抗して上記の止爪裝置と



第 4 圖

突起の懸止を持續し同上各氣筒の衝程作動が停止せば其の背壓の降下により自體の撥條其の他の緊壓裝置により止爪裝置と突起の懸止を開放し以て前記の作動辨體の制御交換をなすべく構成せる加壓鑄造機の自動辨裝置に係る。

水平炭室爐 (1) 第 3874 [昭 17-8-10] (2) 昭 15-7-4. (3) (4) カール, オットー. 本發明は圖に示す如く横置蓄熱裝置を有し該裝置の各個の區分を底部に於て一方廢熱集收通路に又他方豫熱すべき燃燒媒體用の供給部に連結せるものに於て單に爐の吸込に依り



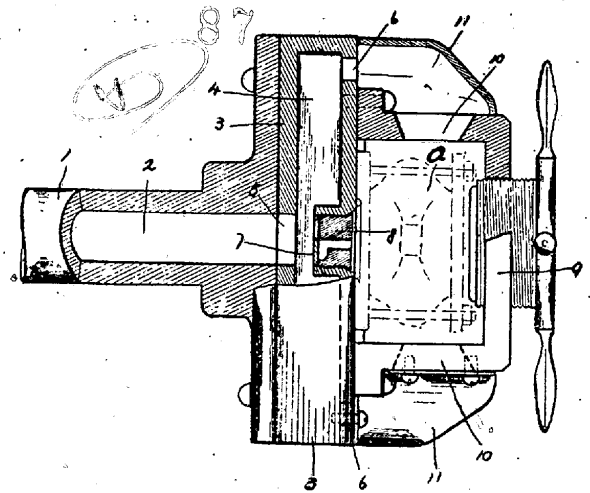
第 5 圖

てのみ吸入する燃燒用空氣の供給に對して地下室に開口し該室より調整し得べき調節部材を具備する管を設け該管を蓄熱的交替に際し開閉する様構成した水平炭室爐に係る。

回轉式注入樋を裝置せるチルドボール鑄造裝置 (1) 第 3926 號 [昭 17-8-15] (2) 昭 16-5-12 (3) (4) 常岡一幸, 本發明は中央主軸の中央部に主軸に固定せられたる中部齒輪を裝置し齒輪アームには通孔を穿ち中部齒輪の上下には主軸に固定さるも左右回轉に對

しては自由なる構輪を裝置し構輪上部内周邊には區劃壁により長きを各等分に分割されたる熔融金屬注入用の樋を裝置し樋の下部は漏斗狀をなしこの漏斗狀部の最低箇所を軸端とし同車輪の下部を他の軸端として鉛垂線の方に湯口を有し金型湯道の一部より開閉せしめ蝶番により一方を固定し他方は前蓋の一部を變形せしめて扁平ならしめ締付金具の頂部の通過する程度の孔を穿ち前蓋に非らざる金型の他の側にボルトを裝置せる締付金具を有する金型を裝置し金型下部には小齒輪を裝置し中部齒輪の外側に於て之と咬み合ふ様取付け車輪アームには各々通孔を穿ち中部下輪の外側には銀を取付け一端を地上に固定せる鎖と臨時接続或は取外すを得る如くし更に中端下輪の外側には數箇所装置全體を回轉せしむべきハンドル狀の突起を裝置せる 回轉式注入樋を裝置せるチルドボール鑄造裝置に係る。

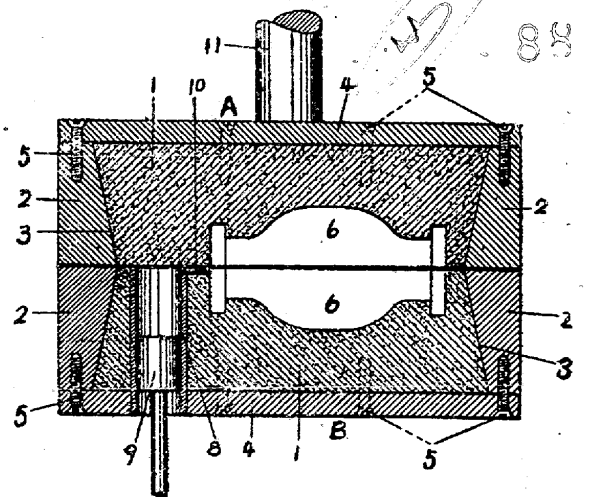
遠心力鑄造機に於ける鑄造型却裝置 (1) 第 4111 號 [昭 17-8-29] (2) 昭 16-11-25 (3) (4) 伊藤與三市 本發明は圖に示す如く中空體となせる回轉軸に連繼する導壕孔を設けたる取付盤に側面



第 6 圖

型の皿體を固定し鑄型裝填部となしたる皿體の兩座面部に窓口部を形成しカバーを介して導壕孔の左右兩端部に穿孔せる給氣孔とを覆裝せしめ更に導壕孔の中央部に皿體内に通ずるバルブを構成せしめたる遠心鑄造機に於ける鑄型冷却裝置に係る。

加壓鑄造用鑄型 (1) 第 4112 [昭 17-8-29] (2) 昭 17-5-12,



第 7 圖

(3) (4) 森田安太郎 本發明は圖に示す如く上下兩型の主體を硬質陶器製としこれ等の周圍及背面を金屬製の枠及釘を以て包圍保護して成る加壓鑄造用鑄型に係る。

アルミニウム電解浴の再生回収方法 (1) 第 4143 號 [昭 17-8-29]

(2) 昭 16-10-2, (3) 松浦梁作外一名 (4) 滿洲輕金屬製造株式會社 本發明は炭素を混入せる電解浴を粉碎しアルカリ金屬の鹽素酸鹽の如き酸化剤の一種又は二種以上を加へ又は加へずして水にて練り固めて塑塊となし乾燥したる後爐中に積み重ね其の堆積層の下部に着火し自然通風により電解質を熔融或は分解損失する事なく混入炭素を自己燃焼せしむるアルミニウム電解浴の再生回収方法に係る。

電極坩堝其他炭素黑鉛製品の表面に炭化珪素皮膜を形成せしむる方法 (1) 第 4156 號 [昭 17-8-29] (2) 昭 15-8-6, (3) (4) 佐々木武尙

本發明は電極坩堝其他炭素黑鉛製品を珪石及鋁屑の適量混合粉末中に埋没し其の外周をコークス粉末更に其の外部を耐火物にて包圍し之等製品自體に直接電流を通し 1600~2000°C の間に灼熱することを特徴とする方法に係る。

鐵鋼の黒染防蝕劑 (1) 第 4154 號 [昭 17-8-29] (2) 昭 16-7-28, (3) 村上透外一名 (4) 東京芝浦電氣株式會社

本發明は苛性ソーダを主とし之に硝酸ソーダと食鹽、鹽化アルミニウム及硫酸ソーダとアルミニウムとを混溶した鐵鋼の黒染防蝕劑に係る。

可塑材料の押出方法 (1) 第 4155 號 [昭 17-8-29] (2) 昭 15-10-4 (3) ジョージ・エフ、テラー (4) 東京芝浦電氣株式會社

本發明は押出すべき材料を澱粉又は類似材料及アルコール又はアセトンと共に加濕混合し混合物を乾燥し之を板狀物に押固め該板狀物より殘留瓦斯を除去し該板狀物に水を合浸せしめ最後に之をダイスを通して押出す事により可塑材料を押し出す方法に係る。

マグネシウム又はマグネシウム合金の電解的防蝕法 (1) 第 4257 號 [昭 17-9-5] (2) 昭 14-1-19 (3) 宮島全世 (4) 株式會社宮田製作所

本發明は硝酸鉛又は醋酸鉛の溶液に苛性アルカリを加へて得たる鉛酸アルカリ溶液に葡萄糖ゼラチン膠又は寒天の中の一を添加したる液の中に清淨となしたるマグネシウム又は其の合金の電解的防蝕法に係る。

アルミニウム鑢接用半田鑢 (1) 第 4261 號 [昭 17-9-5] (2) 昭 16-2-19 (3) 水谷延三郎外二名 (4) 古河電氣工業株式會社

本發明は Cd 0.5~40, Zn 0.5~20, 殘部 Sn よりなる半田鑢に係る。

黄土より鑄物用塗型材を製造する方法 (1) 第 4262 號 [昭 17-9-5] (2) 昭 16-5-22, (3) (4) 鹿島次郎

本發明は蒙疆方面に存する黄土に稀硫酸を作用せしめて其の非和水性並に鑄型への附着性を損ふこと無く其の混有する石灰石の炭酸鹽を分解除去することを特徴とする鑄物用塗型材の製造方法に係る。

人造黒鉛電極原料の溫度處理法 (1) 第 4298 號 [昭 17-9-5] (2) 昭 16-4-4, (3) 木下貞徳 (4) 日本窒素肥料株式會社

本發明は人造黒鉛電極を製造するに用ふる原料を使用前に 1000~1500°C の溫度に保す黒鉛核を生成せしむる事を特徴とする人造黒鉛電極製造原料の溫度處理法に係る。

炭素電極接續裝置 (1) 第 4299 號 [昭 17-9-5] (2) 昭 16-6-27 (3) (4) 清水定吉

本發明は電極接續用ニップルの中心及周圍に貫通孔を設けこれ等の孔に高溫度に於て良電導性にして電極自體よりも體膨脹係數大且つ高溫度に於て流動體となるべき物質を充填しニップルの周圍には電極自體より體膨脹係數大にして強度大然も良電導性の金屬又は炭素壓縮體の環狀接續子を嵌裝し該接續子を介在

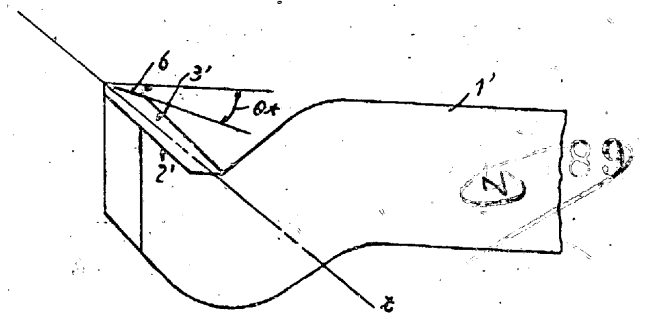
せしめて電極を接續せしむる事を特徴とする炭素電極接續裝置に係る。

連續鑄造法 (1) 第 4330 號 [昭 17-9-10] (2) 昭 17-6-23, (3) (4) 沖本希三

本發明は圖に示す如く耐熱流動性鑄型我を傳熱體固定案内型面に沿ひ連續的に下行せしめ案内型面通過中全周一樣なる肉厚の一時的鑄型を連續的に形成せしめ之に連續的に金屬を鑄込み之を前記一時的鑄型と共に連續生に下行せしむる事を特徴とする連續鑄造法に係る。

熔接バイト (1) 第 4331 號 [昭 17-9-10] (2) 昭 15-5-22, (3) (4) 鈴木益廣

本發明は圖示する如く臺金に熔接鑢付ち銀接或



第 8 圖

は臺金すべきチップを刃の尖端が来る軌跡に平行する如く接着せる事を特徴とする熔接バイトに係る。

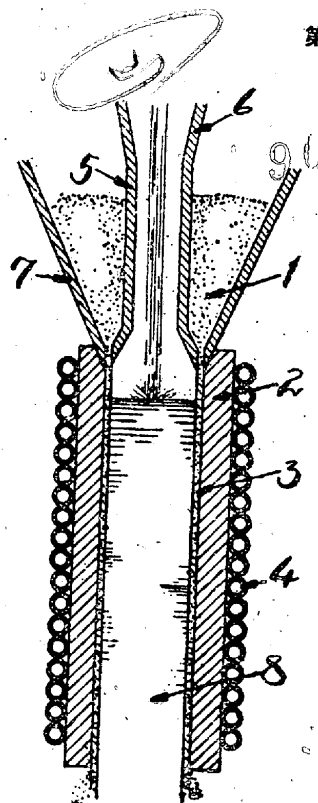
金屬又は合金の合せ棒製造法

(1) 第 4450 號 [昭 17-9-15] (2) 昭 15-12-26 (3) 石川正外一名 (4) 古河電氣工業株式會社

本發明は砲彈形内面を有する外材の内部に内材を鑄造又は嵌合し又は砲彈形外形を有する内材の外部に外材を鑄造又は嵌合したるピレットを使用する事を特徴とする押出により金屬又は合金の合せ棒を製造する方法に係る。

銅覆鋼線製造方法 (1) 第 4451 號 [昭 17-9-15] (2) 昭 15-12-24, (3) 佐藤晃 (4) 藤倉電線株式會社

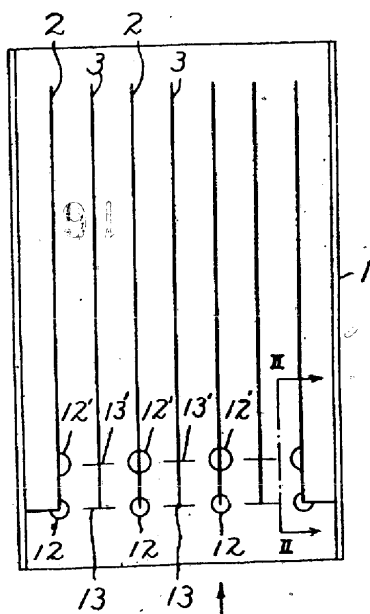
本發明は鋼線の表面に任意形状の半田鑢を纏捲或は軸方向に添へて被覆し更に其の上に銅帶を纏捲或は軸方向に添へて被覆せるものをダイス又はロールを通して鋼線を伸延する事無くして所要の直径になる迄伸延する工程と次にこれを中性瓦斯氣流中に於て半田鑢の熔融點以上の溫度に適當時間加熱して半田鑢を熔融せしめたる後更に之を加熱せる仕上ダイスを通して仕上ぐる工程との結合より成る事を特徴とする銅覆鋼線の製造方法に係る。



第 9 圖

電氣收塵裝置 (1) 第 4500 號 [昭 17-9-15] (2) 昭 16-7-181 (3) 尾島學二 (4) 三菱電機株式會社

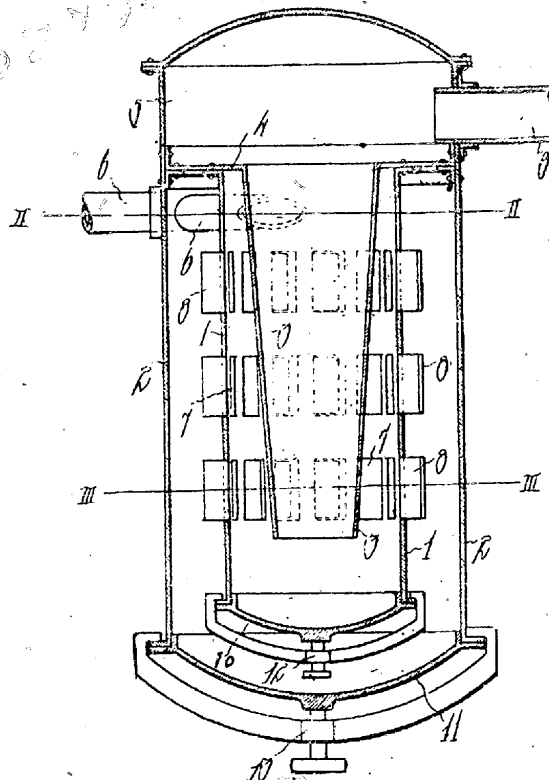
本發明は圖に示す如く平行に配設せる複数の金屬板の瓦斯流入端部に於て曲面突起並針狀突起を交互の板上に相對向する如く設け前者の突起を設けたる金屬板の



第 10 圖

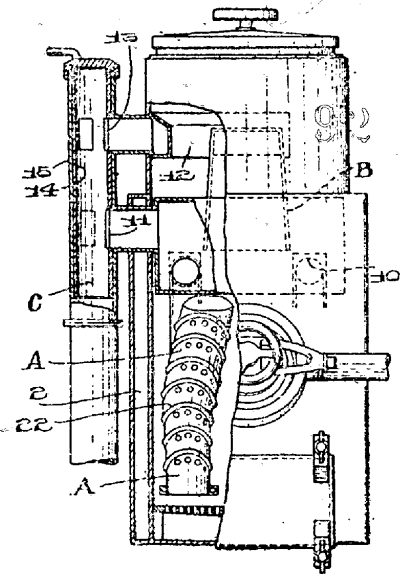
一群と後者の突起を設けたる金屬板の一群とを異なる極性の電位ならしめたる電氣收塵装置に係る。

瓦斯發生爐 (1) 第 4534 號 [昭 17-9-21] (2) 昭 16-5-31, (3) 勝田廣光 (4) 紙谷正治, 本發明は圖に示す如く爐體燃燒室内に數多の透孔を穿てる氣筒を設置し該氣筒内にタール分解板を設け該氣筒を瓦斯導管により瓦斯供給管に連通すると共に別に爐内に開口する瓦斯導出口をも瓦斯導管により, 前示瓦斯供給管に連通せしめ該瓦斯供給管を廻轉操作により前示の兩瓦斯導管の開口を選擇的に開閉せしめ得る二重管より構成せしめた瓦斯發生爐に係る。



第 12 圖

瓦斯清淨裝置 (1) 第 4536 號 [昭 17-9-21] (2) 昭 16-5-16, (3)(4) 安永喜平 本發明は圖に示す如く内外二重筒よりなる内筒の中央部に垂吊されたる上昇筒は下方を漸次收縮して内筒との間に上部が狭小にして下方に至るに従ひ擴大せる間隙を形成し内筒周囲の切線方向に接續されたる給氣管により上部の狭小間隙内に瓦斯を壓入し旋回すべからしめ且内筒の周

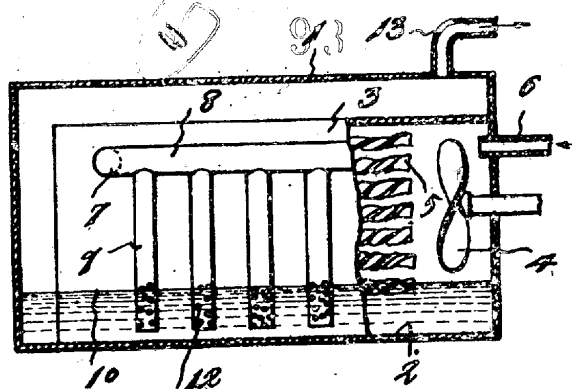


第 11 圖

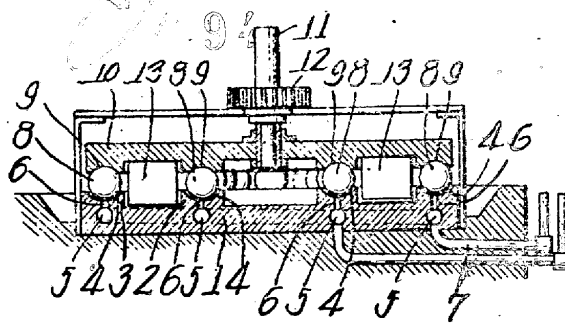
圍には數多の窓孔を開穿すると共に旋回方向に傾斜し外周に突出せる數多の翼片を設け遠心力を作用せしめて塵埃を分離する瓦斯清淨装置に係る。

瓦斯清淨裝置 (1) 第 4537 號 [昭 17-9-21] (2) 昭 16-2-2 (3) (4) 大野信憲 本發明は圖示せる如く適當形状の外罐内に其の底部を同じくしたる内罐を裝着し其の内罐面一方に翼板を取付け之れと相對し内罐内の他端内面より多數の捻曲片を固着し翼板の稍々上部に瓦斯導入管を設け而して内罐の他端内面に近く横管を横架し其の兩端を内罐外に突出し之れを内罐の上方横に屈曲し該屈曲管の下面に數本の瓦斯噴出管を垂下し其の下端を内外罐の底部に容入せる油液に挿入せしめ内罐内の横管の外表面及各瓦斯噴出管の下方部に多數の小存を穿設し外罐の上部に瓦斯貯藏用のタシクに連通せる瓦斯導出管を設けた清淨装置に係る。

金銀の水銀製煉機 (1) 第 4541 號 [昭 17-9-21] (2) 昭 15-1-19 (3) (4) 橋本上元外二名 本發明は圖示せる如く銅球を轉動す



第 13 圖

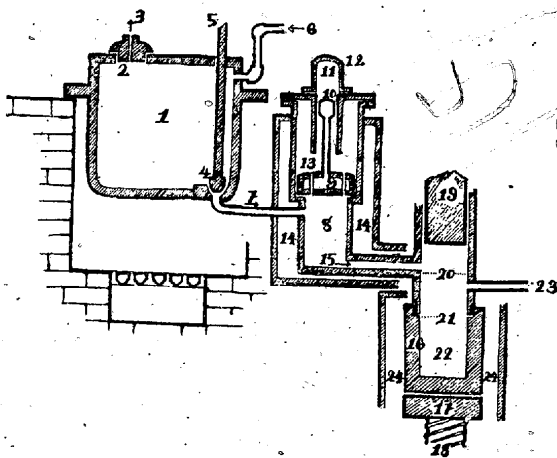


第 14 圖

べくしたる内外二重の圓形の凹入軌條上の各軌條中央に條溝を設け該條溝に連通して水銀捕集溝を設けたる捕集盤上部に前記凹入軌條に對應する凹入軌條を有し内外凹入軌條間の捕集盤上面を招接廻轉すべくせる攪拌翼を有する蓋盤を具へたる金銀の水銀製煉機に係る。

切削用バイトの刃先盛金方法 (1) 第 4599 號 [昭 17-9-21] (2) 昭 16-4-22 (3) (4) 清水尙文外一 本發明は豫め加熱せられたるバイト刃先表面に對し炭素電極棒の先端を接して之に交流電流を通じ次に該電極棒を適當間隔引離して電弧を發生せしめて該電弧により盛金部を部分的に急速に加熱して表面酸化膜を除去せしむると共に高速度鋼等の盛金材料を近接せしめて尖端に電弧を當てて之を熔融しバイト刃先盛金部の熔金上に熔入せしめ而して盛金中盛金面に電極棒を接觸して電弧の發生を絶ち該面の過熱を防止し斯る操作を反復して盛金部を順次に熔着盛金する事を特徴とするバイト刃先の盛金方法に係る。

マグネシウム合金加壓鑄造装置 (1) 第 4627 號 [昭 17-9-25] (2) 昭 17-4-2, (3) (4) 田村直治外一名 本發明は圖示せる如きマグネシウム合金鑄造に當り瓦斯導入装置を有する熔融釜内に於て



第 15 圖

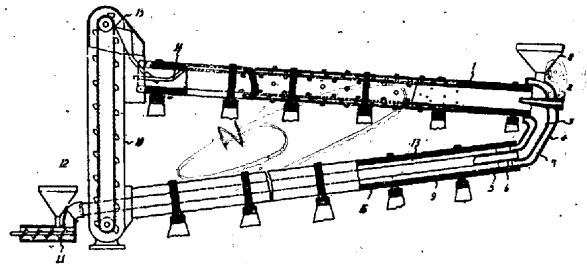
熔融物の上方を亞硫酸瓦斯を以て被覆し熔融したる原料は熔融釜の底部より細管を通じて熔融物容量測定装置に流入せしめ右室内に於て一定所要量を測定計量し更にこれを同じく細管を通じて加壓装置に送し真空下押圧を加へ以て製品を得るものにして以上の装置は括栓を有する細管を以て聯絡結合せられ全操作を一貫して熔融原料を空氣に直接接觸せしめぬ様構成せる装置に係る。

マグネシウム又はマグネシウム合金の電解的防蝕法 (1) 第 4657 號 [昭 17-9-25] (2) 昭 14-1-19, (3) 宮島全世, (4) 株式會社宮田製作所、本發明は Al, Mn, Zn の硝酸鹽の混合水溶液に Zn の酸化物又は水酸化物を添加し硝酸アルミニウムの加水分解による遊離酸を弱め弱酸性となしたるものを電解して Mg 又は Mg 合金を電解的に防蝕する方法に係る。

水銀鍍金方法 (1) 第 4659 號 [昭 17-9-25] (2) 昭 16-10-4- (3) 曾根有, (4) 陸軍大臣 本發明は水銀を鍍金せんとする物體を若干の水銀と共に真空又は水素等の減壓氣中に置き水銀の蒸氣に電流を通じ依て生じたる陽イオンを該物體表面に衝突せしめ該物體表面に液狀水銀を接觸せしむる事を特徴とする水銀鍍金方法に係る。

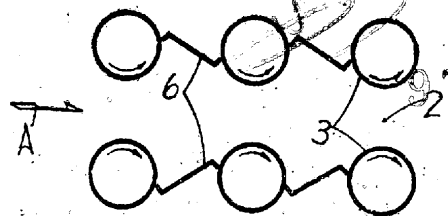
砂鐵粉鑄其の他金屬酸化物の還元装置 (1) 第 4662 號 [昭 17, 9-25] (2) 昭 15-3-31, (3) (4) 長谷川八重作 本發明は圖示する如く二重管狀に形成せる廻轉筒を加熱廻轉築狀爐の下部開口の直下より該管狀爐の上部開口端の方向に適宜傾斜せしめて設け更に管狀爐の下部開口と廻轉筒の上部開口とを二重の裝入管にて氣密に連係し管狀爐より排出する還元物は之を内部裝入管により廻轉筒の内管内に裝入し又外部裝入管にて其の直上に設けたる漏斗より適宜の還

元劑を混和せる砂鐵粉鑄其の他金屬酸化物等の原料を廻轉筒の外管内に裝入し之が廻轉筒を通過中に於て内管内を通過する還元物を冷却し豫熱せしめられたる原料は廻轉筒の下部開口より適宜の冷却防止装置を設けたるバケットコンベヤ其の他の装置により之を管狀爐の上部開口に裝入して加熱還元する如く構成せる事を特徴とする還元處理装置に係る。



第 16 圖

電氣收塵装置 (1) 第 4700 號 [昭 17-9-25] (2) 昭 16-6-28, (3) 笠井完外二名, (4) 株式會社日立製作所、本發明は圖示せる如き收塵電極面を該面に沿ふて流るる被處理瓦斯の流通方向と同方向に向け移動せしめ其の移動速度と瓦斯の流通速度との差を



して電極面に沈澱せる收集物が瓦斯流により飛散せしめられざる範圍内に保持すべくしたる電氣收塵装置に係る。

業 界 雜 報

政府の鐵鋼増産對策

- (1) 國內鐵鑛の非常増産
- (2) 鐵鑛石品位の向上強行
- (3) 鐵源の非常回收強行及び鐵屑利用の徹底
- (4) 國內粉鑛石の利用強行及び燒結作業の改善と燒結圓鑛設備の急速完成
- (5) 原料石炭の地域的自給自足への移行と地炭品位の低下克服
- (6) 原料製品の陸運轉換の促進強化と各種運送能率の増進
- (7) 鐵鑛資源地帯に小型熔鑛爐の急設
- (8) 滿洲鐵鑛輸入量の増加促進 (名古屋新聞 12 月 17 日)。

鐵鋼生産確保運動

商工省及び鐵鋼統制會では次の様な生産確保運動を行ふ事に決定した。

- (1) 工場の整頓運動 (2) 事故無し運動 (3) 皆働運動 (4) 資源節約、無駄排除運動 (5) 材質歩止り向上運動 (6) 運輸能率向上運動、なほ右運動の具體的方法是各工場の創意に俟つ事とした。(12 月 28 日)

鋼材製造に應じ發注も規格採用

鐵鋼統制會では鐵鋼の生産増強をはかるため鋼材を戰時規格により製造させてゐるが需要者に對しても、明年度第 14 半期よりこれに對處して發注せしめることとなつた。(大阪新聞 12 月 29 日)